

平成 28 年 5 月 19 日

国立研究開発法人防災科学技術研究所

## 日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) 宮古陸上局 開所記念式典

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長：林春男）は、平成 23 年度から文部科学省地球観測システム研究開発費補助金による「日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) の整備」事業を実施しております（参考）。

S-net の敷設工事は平成 25 年度に千葉県南房総市から始まり、その後も各海域に観測網の整備を続けて参りました。このたびは、地域の皆様のご協力を賜り、宮古陸上局の整備が完了し、データが取得できる運びとなりましたので、それに伴い、平成 28 年 6 月 10 日（金）に浄土ヶ浜パークホテル（岩手県宮古市）にて S-net 宮古陸上局開所記念式典を下記のとおり開催します。

1. 日時：平成 28 年 6 月 10 日（金） 13:00～
2. 会場：【開所式典】 浄土ヶ浜パークホテル（岩手県宮古市日立浜町 32-4）  
【テープカット】 宮古陸上局（岩手県宮古市崎山第 6 地割 109 番地 2）
3. 対象：報道機関・研究機関・関係者の皆様  
なお、取材を希望される場合は、お手数ですが、別添の「プレスご回答用紙」にて**防災科学技術研究所企画部広報課**へ 6 月 6 日（月）までにメール  
或いは FAX でお申し込みください。
4. 本件配布先： 文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会、  
岩手県政記者クラブ、宮古記者クラブ

※ご希望の方は開所記念式典終了後に S-net 宮古陸上局（岩手県宮古市崎山）を見学いただくことも可能ですが、陸上局周辺には駐車場がございません。式典会場（浄土ヶ浜パークホテル）から宮古陸上局まで送迎バスがありますので、そちらをご利用ください。なお、陸上局内部は大変狭くなっておりまして、参加人数によってはお待ちいただく場合がございます。また、サーバルームとなっておりますので、大型の撮影機材・照明の持ち込みはご遠慮ください。

# 日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) 宮古陸上局 開所記念式典

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長：林春男）は、平成 23 年度から文部科学省地球観測システム研究開発費補助金による「日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) の整備」事業を実施しております（参考）。

S-net の敷設工事は平成 25 年度に千葉県南房総市から始まり、その後も各海域に観測網の整備を続けて参りました。このたびは、地域の皆様のご協力を賜り、宮古陸上局の整備が完了し、データが取得できる運びとなりましたので、それに伴い、平成 28 年 6 月 10 日（金）に浄土ヶ浜パークホテル（岩手県宮古市）にて S-net 宮古陸上局開所記念式典を下記のとおり開催します。

## プログラム

日時：平成 28 年 6 月 10 日（金）13:00～

会場：

【開所式典】 浄土ヶ浜パークホテル(岩手県宮古市日立浜町 32-4)

【テープカット】 宮古陸上局(岩手県宮古市崎山第 6 地割 109 番地 2)

スケジュール：

13:00 - 13:05	開会挨拶	理事長	林 春男
13:05 - 13:25	来賓挨拶		
13:25 - 13:30	事業説明	海底地震津波観測網整備推進室長	金沢 敏彦
13:30 - 13:55	移動		
13:55 - 14:00	テープカット		
14:00	閉会		

※ご希望の方は開所記念式典終了後に S-net 宮古陸上局（岩手県宮古市崎山）を見学いただくことも可能ですが、陸上局周辺には駐車場がございません。式典会場（浄土ヶ浜パークホテル）から宮古陸上局まで送迎バスがありますので、そちらをご利用ください。なお、陸上局内部は大変狭くなっておりまして、参加人数によってはお待ちいただく場合がございます。また、サーバールームとなっておりますので、大型の撮影機材・照明の持ち込みはご遠慮ください。

**参加申込み** 取材を希望される場合は、お手数ですが、別添の「プレスご回答用紙」にて**防災科学技術研究所企画部広報課**へ 6 月 6 日(月)までにメール或いは FAX でお申し込みください。

## 会場案内



[地図：国土地理院 電子地形図（タイル）]

## 交通アクセス

○東北新幹線盛岡駅から 106 急行バス乗車、J R山田線宮古駅から車で約 15 分

○東北道を青森方面へ～盛岡南 I C～国道 106 号を宮古方面へ約 120 分

※近隣住宅へのご迷惑となりますので、お車による陸上局への直接乗り入れはご遠慮ください。

## 式典会場



[地図：浄土ヶ浜パークホテル様 HP より抜粋]

## 日本海溝海底地震津波観測網「S-net」とは

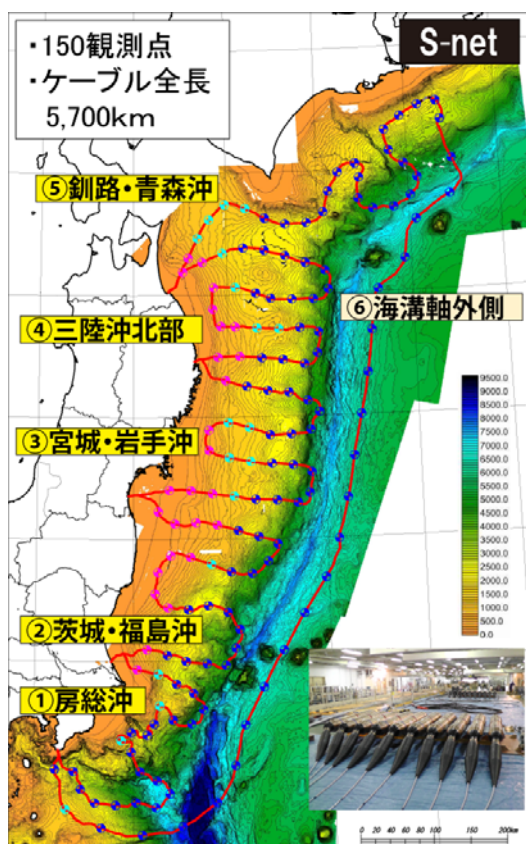


図1 日本海溝海底地震津波観測網 (S-net)

### 1. はじめに

国立研究開発法人防災科学技術研究所は、平成23年度から文部科学省地球観測システム研究開発費補助金による「日本海溝海底地震津波観測網の整備」事業により、東日本沖の日本海溝・千島海溝南部に沿ってケーブル式の地震計・津波計から成る観測点を高密度に配備し、リアルタイムの連続観測を行う、海底の地震と津波の観測網整備事業を実施しています。

「S-net (エスネット)」という名称は、日本海溝海底地震津波観測網の英語名称、**Sea**floor observation **n**etwork for **e**arthquakes and **t**sunamis along the Japan Trench の頭文字 S、n、e、tをとったものです。この名称が広く親しみを持って呼んで頂けるよう、運用に向けて整備を続けています。

S-net 整備事業 HP

<http://www.bosai.go.jp/inline/>



図2 観測装置の外観と内部模式図

### 2. 観測網の概要

観測網は観測装置と海底ケーブル及び陸上局から成り、太平洋沖の5つの海域(①房総沖 ②茨城・福島沖 ③宮城・岩手沖 ④三陸沖北部 ⑤釧路・青森沖)と日本海溝の⑥海溝軸外側(アウターライズ)の計6海域の150カ所に観測点を順次整備予定です(図1)。

観測装置は地震計(速度計、加速度計)と津波計(水圧計)等で構成され、水深8,000mまで設置可能な耐圧容器に収納されています(図2)。

各観測点のデータは光ファイバー海底ケーブルで陸上局に伝送され、さらにそこから地上通信回線で防災科学技術研究所や気象庁等の関係機関に送信されます。

これにより地震と津波のリアルタイム・連続観測、監視が可能となります。海溝型地震や津波を直接検知し、精度の高い迅速な情報伝達を行なうことで緊急地震速報や津波即時予測の高度化などに貢献します。

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

企画部広報課 行き

メール : toiwase@bosai.go.jp

F A X : 029-851-1622

## プレスご回答用紙

お手数ながら6月6日(月)までにご回答お願い申し上げます

件名 : 日本海溝海底地震津波観測網 (S-net)  
宮古陸上局 開所記念式典

1. 御社名 : \_\_\_\_\_

2. 御所属 : \_\_\_\_\_

3. <sup>ふりがな</sup>御名前 : \_\_\_\_\_

4. 人 数 : \_\_\_\_\_

5. 御連絡先 : (TEL) \_\_\_\_\_

(FAX) \_\_\_\_\_

(e-mail) \_\_\_\_\_

6. 陸上局見学を 希望する 希望しない

(どちらかに○をつけること)

7. その他 (取材上のご希望等) \_\_\_\_\_